様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５９３３５６

研究課題名（和文）妊娠期からの産後うつ病予防に向けた早期看護介入プログラムの開発

研究課題名（英文）The Development of Maternal Mental Health Promotion Program for Women during Their Pregnancy

研究代表者
池田　真理（Ikeda, Maria）

東京大学・医学（系）研究科（研究院）・助教

研究者番号：７０６１０２１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：妊婦のアタッチメント・スタイル（AS）が産後うつ病発症に影響していることは、研究代表者の池田の研究で明らかになった。本研究では、子育て期の母親への抑うつ状態が子どもの気質、夫の育児サポート、母子相互作用、夫婦関係および妊娠期のASとどのように関連があるかを明らかにすることを目的とした。子育て期においても妊娠期のASが母親の抑うつに関連することが明らかになったが、複数の要因から母親の抑うつを予測するモデルを検討した結果、抑うつには、夫婦関係、夫の育児サポートが関連していることが明らかになった。今後は妊娠期の介入プログラムにおいて、育児支援を考えるとき，夫の子育て、夫婦関係への視座が重要である。

研究成果の概要（英文）：Previous studies suggested that mothers with insecure attachment style (AS) were at higher risk for postpartum depression. This study examined the influence of child temperament, mother-child interactions, and partner relationship quality on mothers’ mental health. Maternal AS had significant relationship with their depression at three years after childbirth. However, multiple regression analysis revealed that there was no significant relationship between depression and AS, when controlled child temperament, marital relationship, and partners support. Clinical implications included that future intervention for better partners support and marital relationship may possibly prevent maternal depression.

研究分野：医歯薬学

キーワード：産後うつ病　妊娠期　育児期　アタッチメント・スタイル

１．研究開始当初の背景

産後うつ病に罹患した母親は、子どもの成長発達に影響を及ぼし、さらには虐待・ネグレクトとの関連も報告されている。産後うつ病は出産後の母親の 10-20%が罹患するといわれており、妊娠期および産褥早期からの予防的アプローチが重要である。日本では、出産前教育として、母親学級、両親学級、などが実施されている。申請者らが実施した、全国医療機関における実態調査（杉下、上別府、池田ら，2011）の結果、有効回答の 120 施設のうち、約半数の施設が産後うつ病に関する情報提供をしていた。しかし、周産期において、産後うつ病のスクリーニングを実施している施設は約 15%と少ない現状が明らかになった。周産期の保健指導や出産前教育において、産後に起こりうる産後うつ病などのメンタルヘルス教育、産後に生じやすい夫婦関係の変化についての教育は、内容として取り入れられていないのが現状である。そこで、妊娠期から産後うつ病の予防に向けた早期看護介入プログラムの開発に取り組み、臨床において、実施・応用していくことに取り組みたいと考えた。

1990 年以降から、産後うつ病のリスク要因として心理社会的側面が注目されてきており、女性の社会経済背景、対人関係やアタッチメント・スタイルの傾向によって、情緒的サポートや満足が周囲から得られにくい場合にうつ病を発症すると報告されている。人が他者に対して形成している対人関係の様式であるアタッチメント・スタイルは、その人が幼少期に親あるいはそれに代わる重要他者との間に形成された親子関係を基礎として発展させてきたものである。成人になると比較的肯定かする様式と言われているが、出産というイベントがその発達を促すという示唆もあることから、出産を迎える妊婦の他者との関係の取り方について介入を行うことは意義が深いと思われる。近年、産後に抑うつ状態になったり、育児困難感を訴えたりする母親が増加している。妊婦のアタッチメント・スタイルが産後うつ病発症に影響していることは、研究代表者の池田の先行研究で明らかになった。子育て期の今後は母親のうつ状態のアセスメントと適切な支援が極めて重要な課題となってくると考える。

２．研究の目的

子育て期の母親への抑うつ状態が子どもの気質、夫の育児サポート、母子相互作用、夫婦関係および母親の妊娠期のアタッチメント・スタイルとどのように関連があるかを明らかにすることを目的とする。研究で得られた結果より、介入プログラムをさらに発展させる視座とする。

３．研究の方法

（1） 対象者：妊娠 28 週時にアタッチメント・スタイル面接を実施した女性で、現在 34-36 ヶ月の子どもがいる女性。アタッチメント・スタイル面接（Bifulco, 1998）とは、対人関係におけるその人の態度と行動について半構造化面接を用いて得られたエビデンスに基づいて評定するもの。

（2） 研究機関：平成 24 年 10 月～平成 26 年 7 月まで

（3） 調査内容

①質問紙調査：対象者の属性、抑うつ、子どもの気質、夫婦関係、夫の育児サポート

②面接調査：母子相互作用を観察法の Nursing Child Assessment Teaching Scale (NCATS)で査定。

（4） 解析方法：分析は、各要因の相関を示し、母親の抑うつに影響する要因を明らかにするために抑うつを従属変数として重回帰分析を行った。

本研究は、A 大学医学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

（1） 研究参加者は現在第一子が 34-36 か月児である母親であった。対象者の平均年齢は36.23歳、有職者は7名であった。抑うつ尺度、夫婦関係尺度、夫の育児サポート尺度、母子相互作用（総合）の各平均得点は、38.0 点（range：24-57）、72.1 点(range：45-91)、24.7 点(range：19-31 点)、57.4 点（43-67）で、子どもの気質尺度（discomfort, fear, frustration, sadness, soothability）の各平均点（満点 7 点）は、2.4 点、2.6 点、3.0 点、2.6 点、5.3 点であった。

（2） 抑うつと有意な相関が認められたのは、妊娠期の AS（r＝-0.6）、discomfort（r=0.5）、soothability（r=-0.6）であり、妊娠期の AS が安定型で、子どもの気質 soothability（興奮してもすぐに落ち着く）が高いほど、抑うつは負の相関を示し、discomfort（生活環境におけるストレスを感じる）が高いほど、抑うつは正の相関を示した。

（3） 重回帰分析の結果から抑うつに関連があったのは、夫婦関係尺度（β=-0.46）と夫の育児サポート（β=-0.43）であった。

（4） 子育て期においても母親のアタッチメント・スタイルが母親の抑うつに関連することが明らかになった。しかし、複数の要因から母親の抑うつを予測する回帰モデルを検討した結果から、抑うつには、夫婦関係、夫の育児サポートが関連していることが明らかになった。このことから、子育て期においては，父親の育児行動や夫婦関係が母親の抑うつ状態を改善している可能性が示唆された。今後は妊娠期の介入プログラムにおいて、家族への支援を考えるとき，夫の子育てへの参加を促す視座が重要であるとして応用を目指す。

５．主な発表論文等

[雑誌論文]（計 3 本）

① Ikeda M, Hayashi M, Kamibeppu K. The relationship between attachment style and postpartum depression. Attachment and Human Development. 2014; Aug 6:1-16 (Epub ahead of print)

② Ikeda M, Nishigaki K, Kida M, Setoyama A, Kobayashi K, Kamibeppu K. The development and feasibility study of Maternal Mental Health Promotion Program (MMHPP) for women during their pregnancy. Open Journal of Nursing 2014; 2014; 4(13).

③ 池田真理，水越真依，上別府圭子．妊娠中からの子育て支援　－児童虐待予防の視点から－．周産期医学　2014；44(7)：953-956.

[学会発表（国外）]（計 2 件）

① Ikeda M, Hayashi M, Kamibeppu K. The

Relationship between Women's Attachment Style and Postnatal Depression: a qualitative study. 14th World Association for Infant Mental Health, June 14-18, 2014, Edinburgh, UK.

② Ikeda M, Sato I, Fukuzawa R, Soejima T, Setoyama A, Kobayashi K, Kamibeppu K. Parents' perceptions and judgment formation process on their infant's quality of life. 35th International Association for Human Caring Conference, May 24 - 28, 2014, Kyoto, Japan.

[学会発表（国内）]（計 1 件）

① 池田真理，上別府圭子．母親の妊娠期のアタッチメント・スタイルと育児期の抑うつに関する研究－児の気質、夫婦関係に着目して－第 11 回日本周産期メンタルヘルス研究会学術集会（平成 26 年 11 月 13 日-14 日； 埼玉）

６．研究組織

（１）研究代表者

池田真理（Ikeda, Mari）

東京大学大学院医学系研究科　助教

研究者番号：7610210

（２）連携研究者

山本弘江（Yamamoto, Hiroe）

名古屋大学大学院医学系研究科　助教

研究者番号：80251073

上別府圭子（Kamibeppu, Kiyoko）

東京大学大学院医学系研究科　教授

研究者番号：70337856